



社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
 <発行>
 特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 広報委員会
 〒656-0002 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページリニューアルしました。順次更新していきますので、よろしくお願ひ致します。

理事長退任にあたって感謝とお礼

社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会

理事 大矢 暹

6月24日第121回理事会において、小林泉理事が理事長に選出されたことにより、無事に理事長の職責を託せましたことは大きな喜びであり、これまで共に経営・運営にあたってこられた入居者自治会、家族の会、役員や関係団体のおひとりお一人に感謝申し上げます。

今日、世の政治が蔓延させている『今だけ・金だけ・自分だけ』の「3だけ主義・鈴木弘宜」と優生思想の強化など、困難な環境の中ではありませんが、理事長を先頭に、さらなる発展のため、優れた人権意識とリーダーシップに期待するものです。

振り返れば、淡路ふくろうの郷で、共に「暮らしを創る」取り組みを積み上げられたことは最大の喜びであり生きがいでした。

暮らしづくりとは、『一人ひとりの人生に学ぶ』ことです。その人生は、年間100人を超える交流・見学者の方々に「自分を語る」対話形で始まり、やがて冊子や『ふくろうまなびあい文庫』として結実しています。

アフリカに伝わる諺の一つに「老人が一人亡くなると図書館が一つ消える」があります。社会教育士の堀田奈津子さんはこれを引用しつつ『図書館は本と人と出会う場所でありながら人と人をつなげる仕掛けを』と主張されています。

まったく同感です。図書館の蔵書にはとても届きませんが、ふくろうの郷は生きた『図書館』です。当法人の経営する神戸ふくろうの杜などの事業所も同じです。今後も法人の理事の一員として、図書館ならぬ図書館としての役割と光を放つべく楽しく踏ん張ることが生きがいであり希望です。一緒に歩いていきましょう。

暑い暑い8月の終わり、27日(日)、地域交流会の方々のおかげで数年ぶりに10体の案山を立てることができました。以前のようにみんなワイワイとはいきませんが、地域交流会の方々に来ていただけたのは、コロナ前の生活に少しづつ戻っていると実感します。ゆっくりではありますが、コロナ前の楽しみ、つながりを戻していきたいと切に願っています。

◀2006年(平成18年)4月

特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 施設長就任



◀2014年(平成26年)9月

社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 理事長就任



◀2016年(平成28年)9月

特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 施設長退任



ふくろう物語 長野高明様

昭和10年4月12日生まれの88歳です。

令和5年4月からショート利用開始され、その後令和5年5月より、星ユニットへ長期入所となりました。

妻の孝子さまも淡路ふくろうの郷を利用されています。

娘様からお話を聞いています。

きょうだいはいは男5人女2人。高明さんは4男で家を継いだそうです。



中学校を卒業してすぐに、魚を干して売る納屋の仕事
を父親と一緒にしてしまし
た。父親が亡くなってからは
親戚の会社に65歳ごろまで
勤めていました。

多趣味な人生

「どんなお父さんでしたか」と娘さんに伺うと、「体も大きく、やんちゃなお父さんだった」と話して下さいました。釣りが好きで自分で船も持っており、船舶一級の免許も持っていたそうです。

免許を取るのが好きで「危険物取扱」の免許も持っていました。車の運転は50年無事故無違反で表彰されたこともあります。

歌が好きで娘さんが中高生のころは自宅でカラオケを楽しまれ、その効果か7キロ痩せたそうです。

奥さまは三味線、高明さんは民謡を習っており夫婦で披露してくれることもあったそうです。

競馬好きで、「動物園にい



こう」と言われてついでにいたら、競馬場だったこともありました。

ふくろうの郷では、日中、居室で過ごされています。

「長野さん」と名前を呼ぶと「おー、きてくれたんか」「ありがとー」と、返事をしてくれ、女性職員には親族の名前を呼んだりされています。

食事などの支援を終える
と「サンキュー、ベリーマツチ」や「おおきに」とお礼を
言ってくれることがあります。
これからも穏やかにふく
ろうの郷で過ごしていただ
けるよう対応していきます。
(生活援助係 神代雅司)

すいか割り

8月12日にすいか割りを行いました。昨年はコロナウイルスの関係上ユニットごとでの開催だったこともあり、今年久しぶりに大人数が集まった開催となりました。

まずは皆で軽く準備体操を行い、いよいよすいか割りスタート。ブルーシートの上に置かれたすいかは1玉4Lとかなり大きく、入居者の皆さまも驚かれていました。希望された方から順番に挑戦していただきました。応援している方、静かに見守っている方等様々なギャラリーに囲まれながら、皆さますいかに向かって力強く竹刀を振り下ろされていました。すいかのサイズがとて大きいこともあり中々割ることはできませんでしたが、皆さま「ああ、割れんかったなあ」「難しいなあ」と悔しさを滲ませながらも楽しそうに話してくださいました。

挑戦後はすいかをその場でカットし、参加された皆さまで美味しくいただきました。とても美味しかったようで、1杯目を早々に食べ終わりおかわりをされる方も大勢いらっしゃいました。夏の思い出が一つ増え、楽しいひと時となりました。(生活援助係 篠倉拓己)



▲みんな、真剣な表情ですいかを見つめています

偲ぶ会

8 月 14 日に偲ぶ会を開催しました。

○花木ユニット

長谷川清様、大柄親永様、松本松枝様

○月川ユニット

山下輝興様、山崎榮子様、不動幸子様、平野太様

○星海ユニット

門輝子様、河井邦雄様、宮崎稔子様、後しめの様、太田みかゑ様

以上 12 名の偲ぶ人のご紹介を行いました。職員が当時の思い出を語り入居者様も思いだしている様子で話を聞いていました。



▲狭間施設長のお話を聞く入居者たち

9月 ふくろうの暮らし

- 9/ 4(月) ふくろう理髪店
- 9/ 5(火) ふくろう大学演劇講座
- 9/ 6(水) 誕生会
- 9/10(日) ふくろう敬老会
- 9/13(水) 手話講座
- 9/14(木) 回想法
- 9/16(土) ふくろう大学書道講座
- 9/20(水) ふくろう喫茶
- 9/22(金) ふくろう大学料理講座

(生活援助係 川崎 弘統)

その後、松栄寺へ吉見輝子様と夜久保子様为代表で一緒にお参りに行きました。真剣に手を合せておられました。長く入所されていた方や短い間の郷での生活を楽しんで頂けたらと思います。また職員一同今後とも入居者様に寄り添いともに過ごしていきたいと思っております。



▲松栄寺へのお参り

思い出の場所で黒崎さんが語る手話は『波乱万丈』。

ふくろう学びあい文庫の紹介

『黒崎時安 人生を語る』



今は亡き黒崎氏のこれまで恥ずかしいと心の中にしまっていた、壮絶な人生を胸を張って語れるようになり、実際に経験した場所で撮影され語られた内容です。

DVD 1 枚

1500 円 (税込)

企画・編集・発行／ふくろうまなびあい文庫編集委員会

〒656-0002 兵庫県洲本市中川原町中川原28番地1 特別養護老人ホーム波路ふくろうの郷気付

TEL : 0799-25-8550 FAX : 0799-25-8551 ホームページURL: <http://fukuroku.manaabi.jp/fukuroku/> ※数量が多い場合はご相談ください。

注文書

FAX 0799-25-8551 ふくろうまなびあい文庫編集委員会

お名前		文庫②	冊
FAX&TEL		数量	円
住所 〒			

※送料は別途必要となります。

**淡路聴覚障害者
センター便り**

第3回社会生活教室

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

防災への心がまえ

7月29日(土)みなと元気館

午前は洲本市の「防災出前講座」を利用し、洲本市消防防災課の赤松氏、浜端氏に来ていただき防災への備えの大普段からどんな災害への備え切さを学びました。

午後にはワークショップで、午後はワークショップで、



▲洲本市消防防災課 赤松氏のお話を聞く

まずは、非常食を作る手ほし合いました。

どきを受け、その後講演。参加者は、台風の被害や阪ワポイントを使って阪神淡路大震災で被災経験がある路大震災や平成16年淡路を襲る方が多く、昔の記憶が鮮明だった台風23号の被害状況などに思い出されたようで、様々の生々しい写真や説明、そして経験談がたくさん話されまて災害時には状況に応じて早した。

めに判断して避難行動、「共 災害への備えの大切さは何助」「公助」を待つより、自分回となく聞き、頭ではわかっの命は自分でまもる「自助」ているものの、いざ、災害への気持ちが一番大切と繰り返の備えとなると、きちんと対し話され、そのための心がまえできていない方は少なくまだえについて教えていただきままだ不十分な状態が明らかになりました。(辻 愛子)

**災害への備え
は大丈夫？**

盲ろうなので、通訳介助員を通してでない一人で行動できない。被災時のことを考え、近隣との交流が大事と言われるが、盲ろうのためできない。一人での外出も困難なので、家族との待ち合わせもできない。被災時のための避難



物資は準備しているが、食料品は賞味期限が見られないので、妹に確認してもらっている。(奥井)



阪神淡路大震災で被災した。家の被害は少なかったものの職場が被害を受け仕事を辞めざるを得なかった。その後台風の時など2回隣家の義姉からの誘いで体育館に避難したことがある。聞こえる義姉が隣に住んでいるので安心だが、いなかったら判断できず不安と思う。(打越)

災害の備えとしてタンスの固定方法や台風の情報テレビを見て、気にはしているが、実際にはやっていない。寝室にタンスをおかないなどの工夫はしている。非常袋などもすぐに手に取れるところにはおいていないので、今後きちんと準備したい。(斉藤夫婦)

阪神淡路大震災で被災し、その後新築した自宅では、今は亡き夫がタンスなどを突っ張り棒で固定するなどきちんと対策を考えてくれ安心している。(榎本)



家族ごとに非常袋を準備。玄関先に準備している。タンスの固定やローチェストに取り替える、備蓄食も定期的に毎年チェックしたり、家具や衣服の減量化やガスも自動でロックがかかるものに変えた。災害への備えはきちんとやっている。避難時に家族が集まる場所の相談はできていない。(野口)



手話通訳者養成講座修了

令和3年度から3年間にわたって開催した淡路独自の手話通訳者養成講座が7月25日(火)を最後に5名が修了されました。

ろう講師の橋詰一則さんは「学んだことを意識して身に着け、次のステップに向けて頑張ってもらいたい。地元で手話通訳の担い手が増えることを願っています。」聞こえる講師の平松弘子さんは「3年間学習を積み重ねることで、翻訳技術だけでなく、主体の尊重や場の調整など、聴覚障害者が聞こえる人と対等な社会参加するために必要な通訳者の役割についても理解を深めていただけたと思う。」

また受講者のみなさんは、「通訳者の立場の難しさや大切さを学びました。良い仲間にも恵まれ最後まで頑張れました。」とそれぞれ感想を寄せていただきました。

(瀬田 栄美)

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

レク活動 「かわいい飾り作り」

8月28日(月)、しばらくお休みしていましたが、3かぶり小林先生にお越しいただき、デイサービス、おのこの家合同のレク活動でかわいい飾りを作りました。



材料はトイレットペーパーの芯だけ。細かい作業も皆さん集中し、それぞれの個性が光

「筑波技術大学から 学生との体験交流」

8月10日(木)、筑波技術大学から大杉教授と学生の3名が見学に来られました。

最初は、濱田総括主任からふれあいセンターについて説明をし、学生さんは午後から実際にこのころの家利用者さんと一緒に作業体験をしていただきました。

塩作業も裁縫の手縫いも、直接利用者さんからコツなどを伝えると徐々にできるようになったり、なかなか難しかったりの様子でしたが、とても楽しかったと感想をいただきました。

る作品ができあがりしました。日頃、お会いすることがない利用者さん同士も「今日はここに來てるのや」「上手にできてるね」などお互いの作品について話し合いながら交流を深めることができ、本当にありがとうございました。(支援員 楠本)

昼食やお昼休みも一緒に過ごし、地域による手話表現の違いなどの発見があったそうです。卒業したら是非おのこの家に就職していただけたら嬉しいですね。(支援員 興津)

～焼き菓子パン販売について価格改正のお知らせ～

食品原材料・梱包資材の価格高騰や物流コストの上昇が続いていますが、従来の価格を維持することが困難な状況となっております。販売の価格については、仕入れ等価格の約2倍の設定をしておりますが、それを下回っている商品については、お客様の購売意欲の減退を避けるため、9月より販売に係る価格を改正いたします。

お客様に喜ばれる真に価値ある製品とサービスの提供に努めてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

「感染症対策実践について」研修会を実施しました

8月24日(木)午後5時30分から、ふれあいセンター職員研修会を行い、18名の参加がありました。

テーマは感染症についてです。最後、再びコロナ感染が広がっている状況にあり改めて気を引き締めていかななくてはならないと再確認しました。

また、この夏は熱中症を心配する声がよく聞かれました。デイ、おのこのころの利用者さんの体調管理に気をつけてきましたが、残暑も厳しそうですね、変わらず体調変化に気をつけていきたいと思えます。

(デイ管理者 竹内)

熱中症に 気を付けましょう!



神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

世代を超えた念願の交流会！

ふくろうの杜が開所してから、子ども（利用児）と高齢者（利用者）がお互いの交流をしたいね、と話していたものの、コロナ禍などにより、なかなか実施が難しい状況が続いていました。そして、お盆明けの8月16日（水）に放課後等デイサービスふくろうっこ利用児4名と地域拠点型一般介護予防生がいデイサービス利用者14名が1階の食堂で念願の交流会を実施しました！

約2時間の交流では自己紹介からはじまり、グループに分けてジェスチャーゲーム、そして食堂の手作りチーズケーキ作りをして自己紹介しています



ドキドキしながら自己紹介しています

ーキを美味しく食べながらお話をし支援学校の先輩もいて（70歳差！）その方からの学校の話



夏は怪談に尽きるよね～

にキラキラ目を輝かせながら聞いている子どもがいました。

交流会の感想をお聞きしたところ、「はじめてで楽しかったです。かわいいです。ジェスチャーゲームでは子どもと色々一緒に考えました。もつと磨いていってほしいです」

「ようやくの企画ですね。今後毎月1回交流会をしてくれるとうれしいなあ。子どもと話が通じてうれしいです。今のろう学校にはパソコンがあるようですね。うらやましいです」

子ども達からも「良い交流会でした。ろうのおじいさんやおばあさんの話を聞く機会ってあまりないからよかったです。チーズケーキ美味しかったです！」「おじいちゃんやが阪神タイガースのユニフォームを着せてくれてうれしかったです！」

ひと昔前までは地域の子どもは地域ぐるみで世話をしたり、高齢者の方々も近所の子どもを自分の孫のように可愛がっていたという時代がありました。ところが現代になると、近所付き合いが希薄になり、なかには高齢者と触れ合ったことがないという子どももいます。

今回の交流を通して、子ども達には高齢者を労わるという思いやりの心が芽生え、高齢者も子どもとの関わりを通して「生きがい」を感じていただけだと思います。神戸長田ふくろうの杜という社会資源でお互



手話に花を咲かせています♪



美味しいチーズケーキとコーヒーです

いのデイサービスと一緒に過ごすことで双方に活力や思いやりの心が生まれたと思います。今後もこのような交流を続けていきたいと思っています。

（放課後等デイサービス 山本美由美）



最後に一緒に体操をしました